



子ども科学相談室

あなたの質問にお答えします!



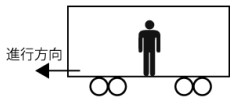
質問:カモノハシやハリモグラは哺乳類なのに、どうしてたまごから生まれるの? 4年 ねこ

答え:ねこさん、卵から生まれることを「卵生」、お母さんから生まれることを「胎生」、また卵がお母さんの体の中に留まっています、そこから生まれるのを「卵胎生」といいますよ。ところで、恐竜などの爬虫類の仲間も、私たち哺乳類の仲間も、元は両生類(カエルやイモリの仲間)から枝分かれして進化してきました。つまり、もともと「卵生」だったのです。だから哺乳類が誕生したばかりの頃は「卵生」や「卵胎生」が普通だったようです。しかし多くは、ほかの生物との生存競争に敗れて絶滅したり、「胎生」に進化したりして、現在残っているのは、その2種類だけになってしまったのです。



質問:なぜ電車の中でジャンプしてもうしろへ行かないの? 6年 だれか

答え:だれかさん、素晴らしい気づきですね。実は、この問題はリングが木から落ちるのを見て「万有引力」を発見した、あのニュートンさんも気づきました。ニュートンによると「すべての物体は外から力が働かない限り、静止している物体はいつまでも静止しつづけ、運動している物体は、いつまでも同じ速さでまっすぐに運動しつづける」ということです。電車の中でジャンプした君は、ジャンプする前から電車と同じ速さで運動していたわけですから、ジャンプしても、電車といっしょに同じ向きに同じだけ進んでいて、けっして後ろには行ってしまわないのです。



質問:花の茎は、骨がないのにどうして立っているの? 5年 ちくわの友

答え:ちくわの友さん、たしかに君の言うとおり、動物には骨があるけど、植物には骨がないですね。では、どうして植物はピンと立っているのでしょうか? 実は、動物も植物も、細胞という目に見えないほど小さな部屋が、たくさん集まってできています。動物の細胞は細胞膜というやわらかい袋に包まれていますから、立ち上がるには骨が必要で、ところが植物の細胞には、細胞膜の外側に、さらに細胞壁と呼ばれる固くて丈夫な壁があり、この壁が植物の体を骨のかわりに支えてくれるので、植物は骨がなくとも立っているのです。



自転車クラブ募集広告

～自転車の安全運転の習得を目指して～

4月9日(金)、須坂警察署で今年の「交通安全須高地区大会」の説明会がありましたので、参加してまいりました。自転車旅を愛するものとして、また自転車クラブの担当として、ルールや技能の他に、自転車の楽しさもみなさんに伝えたいと思います。

先に募集要項を4年生以上の家庭に配布しましたので、詳しい内容をよく読んでいただき、ふるってご応募ください。



尚、新型・変異コロナウィルスの関係で、尚、新型・変異コロナウィルスの関係で、大会が本当に実施できるかは微妙な段階ですが、交通安全の知識や技能やマナーを身につけておくことは、大会のあるなしに関わらず大切なことですので、22日から実技練習と学科の学習を開始したいと思います。
※追伸・学んだ知識や技能をもとに安全サイクリングも企画中です!

理科室 旅カフェ

～日本一のツルの渡来地～



わたしは旅が大好きで、休日や長期休みをつかって日本中を旅しています。旅は、あまりお金がかからないばかりか、自分の足で目的地に到達したという大きな達成感が得られます。また、旅の旅人に対する地元の方の眼差しが温かく、たくさんの方とおしゃべりできたり、友達になれたりします。つまり、旅が旅全体を、ほんわかとさせてくれるのです。

2017年の暮れ、私は鹿児島から福岡まで九州を縦断する旅に出ました。途中、鹿児島県と熊本県の境目の辺りに出水市という人口は須坂市と同じぐらいの田舎街がありました。見渡す限りの田園地帯です。そこに「日本最大のツルの渡来地」と書かれた看板を見つけました。「おや?」と思った次の瞬間、わたしはもうその矢印の指す方向にハンドルを切りました。しばらく進むと、田んぼや畑の中に、おびただしい数のツルが見えてきました。思わず「うわっ! すごーい!」と叫んでしまいます。



観光センターの方の説明によると、毎年10月から12月にかけて、凡そ1万羽のツルが、遠くシベリアから出水市をめがけてやって来るのだそうです。ここに集まってくるツルは、数の多さだけでなく種類の多さでも日本一で、「鹿児島県のツル及びその渡来地」として、国の特別天然記念物に指定されているのだそうです。



どこまでも絶えることなく続く、ツルの群れの中を、(ナベツルの群れ)まるでおとぎの世界に迷い込んでしまったかのような不思議な気分です。自転車旅を走らせました。(つづく)

